

平成27年度京都府公立高等学校前期入学者選抜のための共通学力検査の出題について

<出題方針>

中学校学習指導要領に基づき、各教科とも標準授業時数での学習範囲において、中学校で学習する基礎的・基本的な内容に重点を置くとともに、知識・技能等を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等が的確に把握できる出題とする。また出題範囲は、中学校学習指導要領の趣旨に沿った、生徒が履修している各教科の内容を踏まえた適切なものとなるようにする。

<特徴>

基礎・基本の定着、論理的思考力や判断力・表現力をみる

中学校で学習する基礎的・基本的な内容の定着をみるとともに、多角的な観点からの記述式の解答を求める問題を設け、生徒が身に付けたさまざまな知識・技能等を活用して比較・分析し、総合的に考え、判断・解決し、表現できるかどうかをみた。

<各教科の特色と傾向>

【国語】

- 1 現代文では、会話文形式の問題などで、論理の展開をとらえて内容を理解する力をみるとともに、記述式問題で、筆者の主張を的確に読み取り簡潔にまとめる力もみた。また、言葉の特徴やきまりに関する事項、漢字に関する事項についての理解をみる問題と、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の内容に関連する問題を設けた。

【出典】 「ベスト・エッセイ 2014」 平松洋子 (光村図書)

「生命と記憶のパラドクス」 福岡伸一 (文藝春秋)

問題文は、エッセイストの平松洋子氏による、光孝天皇の和歌にまつわる自身の体験について述べた「季節のあわい一瞬」という文章と、生物学者の福岡伸一氏による、文化を今一度見直すことの重要性について述べた文章である。文章の内容を的確に理解することで、自然、人間、社会などについての考えを深めていくことを期待する。

- 2 古文では、中世の文章を題材とし、内容を読み取る力をみるとともに、歴史的仮名遣いなどについて問い、古典を理解する基礎が身に付いているかどうかをみた。なお、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像する出題となるように留意した。

【出典】 「今昔物語集」 (角川文庫より)

平安時代末期に成立したとみられる説話集であり、作者は未詳。

問題文は、飛鳥時代の人物である三輪高市麿のエピソードについて書かれた文章である。問題文の内容を読み取ることで、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、古典の世界に親しむ態度が養われていくことを期待する。

【数学】

- 1 数量や図形などに関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得できているかどうかをみるとともに、それらを活用してさまざまな事象を数理的にとらえ、見通しをもって論理的に考察する力をみるように工夫した。また、整数に関する証明の記述問題については、根拠を明らかにし、筋道立てて表現する力をみた。
- 2 点の移動に関する問題については、事象を数理的にとらえ、変化や対応の法則性を見いだして考察し、適切に表現する力をみた。

【英語】

- 1 生徒の身近な暮らしに関わる場面についての設問を通して、英語でのコミュニケーション能力の基礎が身に付いているかどうかをみた。絵を見ながら会話文を読んで、言語の使用場面や働きに留意しながら基本的な語彙や文法などの知識を活用して、ふさわしい表現ができるかどうかをみる、記述式の問題とした。
- 2 長文問題は、スタイルの異なる2つの文章から出題した。休日の計画に関する会話文では、主に、必要な情報を整理して読み取る力をみた。また、世界の水危機を題材とした英文では、語句や文、文法などに関する知識が身に付いているかどうかをみるとともに、内容を正しく読み取る力や論旨を踏まえて適切に英語で表現する力をみる問題も設けた。
- 3 リスニング問題では、会話を聞いて、情報を正確に理解し、質問に対する適切な応答を考える力が身に付いているかどうかをみた。また、まとまった内容をもつ会話を聞いて、その要点を聞き取る力をみるとともに、内容を正しく理解し、適切に応答できるかどうかをみた。